

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査 小田原市の結果について

小田原市教育委員会

## 目 次

### 1 はじめに

### 2 調査の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 調査の方式
- (3) 調査の実施日および調査の対象
- (4) 調査の内容
- (5) 調査結果の見方
- (6) 本市の基本的な考え

### 3 各教科の平均正答率

- (1) 平成30年度 各教科の平均正答率一覧

### 4 調査結果のポイント

- (1) 主な成果について
- (2) 主な課題について
- (3) 児童生徒質問紙と学力との相関について

## 1 はじめに

平成30年4月に実施された「平成30年度全国学力・学習状況調査」の本市の調査結果の概要についてお知らせします。本市の調査結果及び課題等を公表することにより、学校・家庭・地域がより一層の連携し、本調査から見える児童生徒の学力や学習状況の改善に努めていきたいと考えています。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面であることを踏まえ、結果については、序列化や過度な競争につながらないように十分配慮して取り扱う必要があります。従って、本内容をご活用の際にはこの趣旨を十分ご理解いただき、適切な取扱いをされますようお願いいたします。

## 2 調査の概要

### (1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 調査の方式

悉皆調査

参考	年度	調査方式	調査科目
	平成19～21年度	悉皆調査	国語、算数・数学
	平成22年度	抽出調査	国語、算数・数学
	平成24年度	抽出調査	国語、算数・数学、理科
	平成25・26年度	悉皆調査	国語、算数・数学
	平成27年度	悉皆調査	国語、算数・数学、理科
	平成28・29年度	悉皆調査	国語、算数・数学
	平成30年度	悉皆調査	国語、算数・数学、理科

※ 平成23年度は東日本大震災のため予定していた抽出調査を中止

### (3) 調査の実施日および調査の対象

平成30年4月17日（火）

- ・小学校第6学年（市内25校、約1,500名）
- ・中学校第3学年（市内11校、約1,600名）

### (4) 調査の内容

#### ① 教科に関する調査

- ・国語A、算数・数学A（主として「知識」に関する問題）
- ・国語B、算数・数学B（主として「活用」に関する問題）
- ・理科（主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に）

#### ② 質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

### (5) 調査結果の見方

本調査の結果で示されている平均正答率については、文部科学省の考え方に準じて整理している。

#### (参考)

各都道府県（公立）の状況については、平均正答率を見ると、平成29年度同様、ほとんどの都道府県が**平均正答率の±5%の範囲内にあり、大きな差は見られない。**

出典：平成30年度全国学力・学習状況調査 報告書(平成30年7月 文部科学省 国立教育政策研究所)

(6) 本市の基本的な考え

小田原市教育委員会では、本調査の結果について次のような考えを基本としている。

本調査で測定できるのは「学力の特定の一部」であり、地域性や家庭環境等による影響も受けるものと認識しているが、調査問題は、学習指導要領の目標・内容等に基づいて作成されたものであり、その結果は、児童生徒の学力の一側面を示す客観的な資料である。

### 3 各教科の平均正答率

(1) 平成30年度 各教科の平均正答率一覧（単位は%）

	教科	小田原市	神奈川県	全国
小学校	国語A	65	70	70.7
	国語B	51	54	54.7
	算数A	59	64	63.5
	算数B	48	52	51.5
	理科	58	60	60.3
中学校	国語A	75	76	76.1
	国語B	60	62	61.2
	数学A	63	66	66.1
	数学B	45	48	46.9
	理科	63	66	66.1

※平成29年度調査より、市や県の正答率は整数表示となった。

○小学校では国語Aを除くすべての教科において、また、中学校ではすべての教科において「全国平均正答率±5%」の範囲内にあり、学力は、「全国と大きな差はない」状況である。

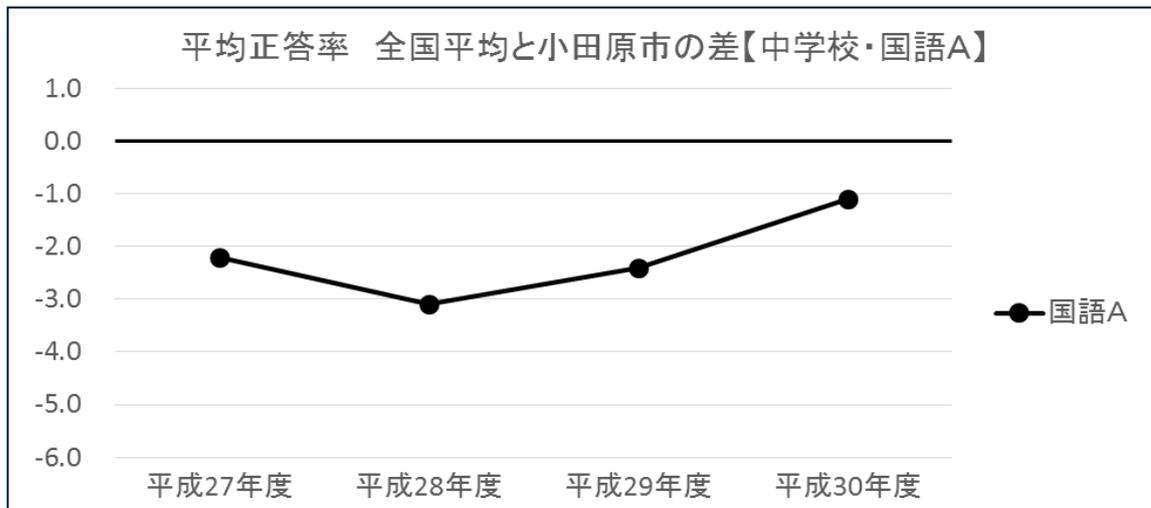
小学校は国語・算数ともに、また、中学校は数学のB問題（主に活用）の方がA問題（主に知識）と比べて全国平均に近く、昨年に引き続き、児童生徒の思考力を伸ばす授業改善の成果であると考えられる。

また、小学校は特に、国語、算数ともにA問題（主に知識）に課題がある。中学校では、国語A問題（主に知識）は、全国平均に近付き大きく改善されたが、数学A問題（主に知識）に課題がある。小・中学校ともに、基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと身につけていくことが大切である。

#### 4 調査結果のポイント

##### (1) 主な成果について

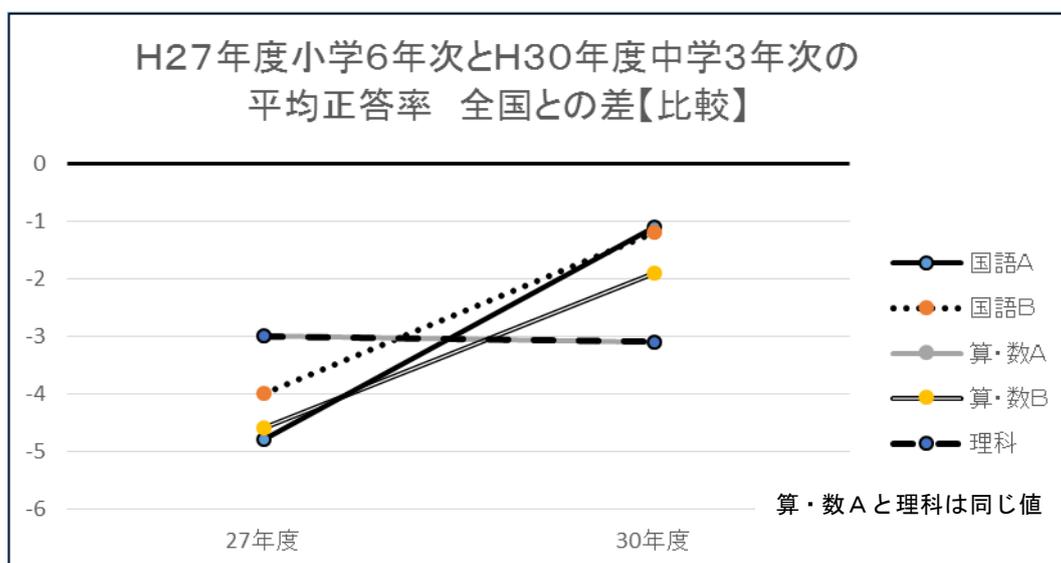
##### 【成果1】 中学校の国語A問題（主に知識）の平均正答率が大きく改善



○以前から課題の一つでもあった国語A問題（基本的・基礎的な知識・技能が身についているかどうかをみる問題）だが、中学校において、平成28年度の中学校3年生の結果と今年度を比較すると、全国平均-3.1ポイントから-1.1ポイントとなり、全国平均との差が2ポイント縮まり、大きく向上している。

2年連続で、中学3年生の国語A問題において平均正答率の向上が見られた。各学校では、自校の全国学力・学習状況調査の分析をもとに、本市の重点目標でもある「基礎学力の向上」に向けた取組が行われている。家庭学習や朝の時間、また、授業の始めの時間などに、漢字や語句に係わる課題に計画的・継続的に取り組むなど、指導の工夫・改善の成果が現れている。

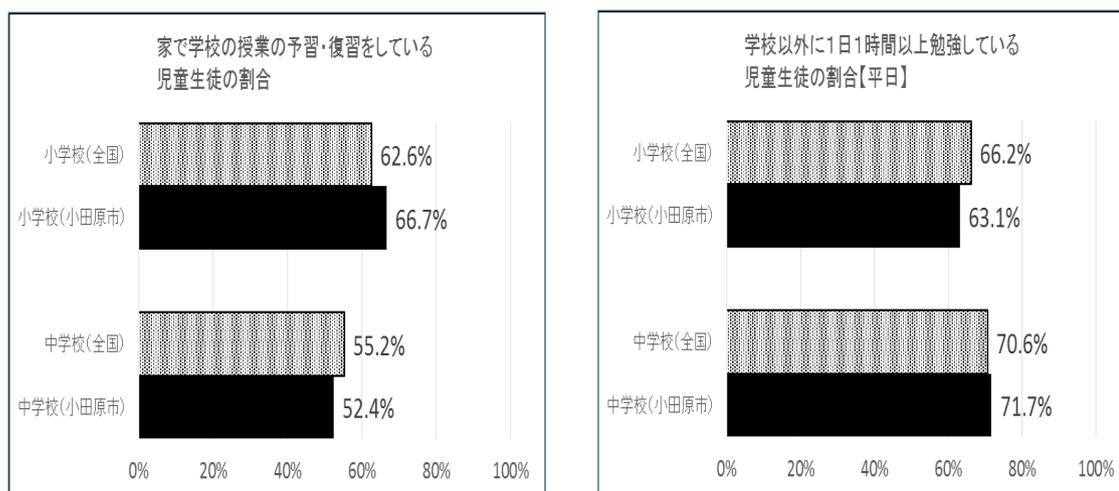
##### 【成果2】 平成30年度の中学3年生は、3年間で平均正答率が向上



○平成30年度の中学校3年生の結果を、平成27年度の小学校6年生の結果と比較し、同じ集団の3年後の変化を見ると、全国平均との差が-3ポイント~-5ポイントあったものが、3ポイント~4ポイント程度向上している。

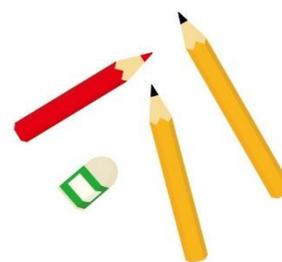
平成26年度の小学6年生と平成29年度の中学3年生の比較に続き、3年連続で中学3年生において平均正答率の向上が見られた。今年度も、各学校で行っている指導方法等に関する研究や各中学校区を単位に行っている小中合同の研究会での取組の積み重ねが成果として現れている。

### 【成果3】 家庭での時間の使い方の一部が改善



○小学校の児童質問紙では、「家で学校の授業の予習・復習をしている割合」の質問で、「している、どちらかと言えば、している」と肯定的に解答した児童の割合が、全国平均を4.1ポイント上回っている。また、中学校の生徒質問紙では、「学校以外に1日1時間以上勉強している生徒の割合」が、昨年から3ポイント増加し、全国平均を1.1ポイント上回った。

本市の課題でもあった、「家庭での時間の使い方」の一部に改善がみられた。少しずつではあるが、児童生徒の時間の使い方に変化があったことが現れている。今後も家庭への啓発に努めていきたい。



(2) 主な課題について

【課題1】漢字の定着

【小学校 国語A】(数値は平均正答率、単位は%)

設 問	小田原市	全 国
【文の中で漢字を使う】 「 <u>せい</u> 造」	68.8	73.4
【文の中で漢字を使う】 「 <u>せつ</u> 備」	72.1	82.2
【文の中で漢字を使う】 「 <u>しょう</u> 毒」	73.1	82.2
【文の中で漢字を使う】 「 <u>かん</u> 理」	56.9	65.0
【文の中で漢字を使う】 「 <u>せつ</u> 極的」	38.3	51.4
平 均	61.8	70.8

【中学校 国語A】(数値は平均正答率、単位は%)

設 問	小田原市	全 国
【漢字を書く】 「ひもで <u>たば</u> ねる」	72.3	79.0
【漢字を書く】 「 <u>まく</u> が上がる」	69.1	72.9
【漢字を書く】 「 <u>ゆる</u> す」	67.3	71.4
【漢字を読む】 「 <u>模型</u> を作る」	94.6	95.7
【漢字を読む】 「水が <u>凍</u> る」	97.1	97.8
【漢字を読む】 「技を <u>磨</u> く」	97.8	98.1
平 均	83.0	85.8

○小中学校において、漢字を文の中で正しく使ったり、文脈に即して漢字を正しく書いたりすることについて、全国平均を下回っている。

漢字に関しては、昨年度までと同様「漢字を書き、文や文章の中で使うこと」に課題が見られた。漢字は日常生活の中で適切に使うことができるようにすることが大切であり、ノートに何度も書くだけでなく、前後に用いられている言葉や文脈に合った漢字を書くなどの学習の積み重ねが必要である。

【課題2】算数・数学の知識・技能の定着

【小学校 算数A】(数値は平均正答率、単位は%)

設 問	小田原市	全 国
針金0.4mと、0.4mの重さ60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ	55.7	66.7
分度器の目盛りを読み、180°よりも大きい角の大きさを求める	53.1	58.5
空間の中にあるものの位置を正しく書く	66.4	73.5
200人のうち80人が小学生のとき、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ	47.1	52.9
示された事柄が両方に当てはまるグラフを選ぶ	55.8	63.6
平 均	55.6	63.0

○小学校では、得意・苦手といった分野は見られないが、全般的に全国平均を下回っている。

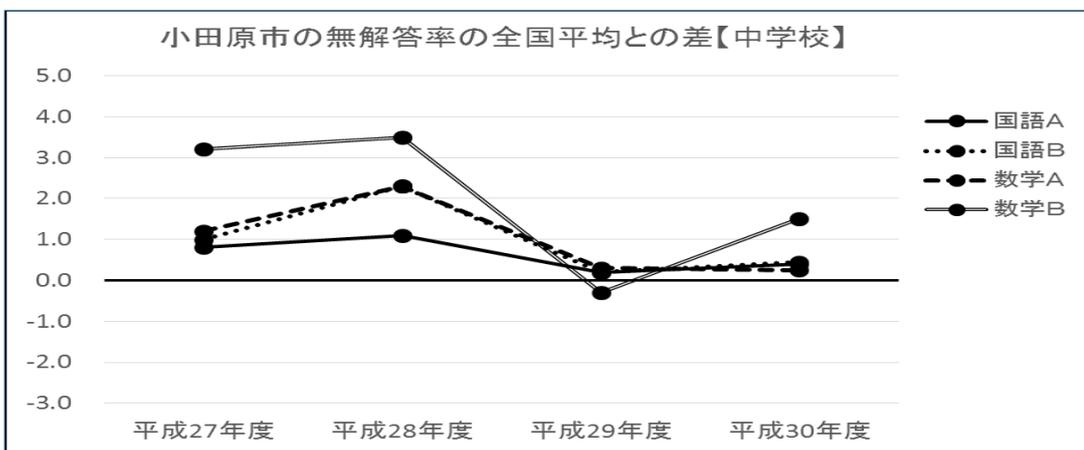
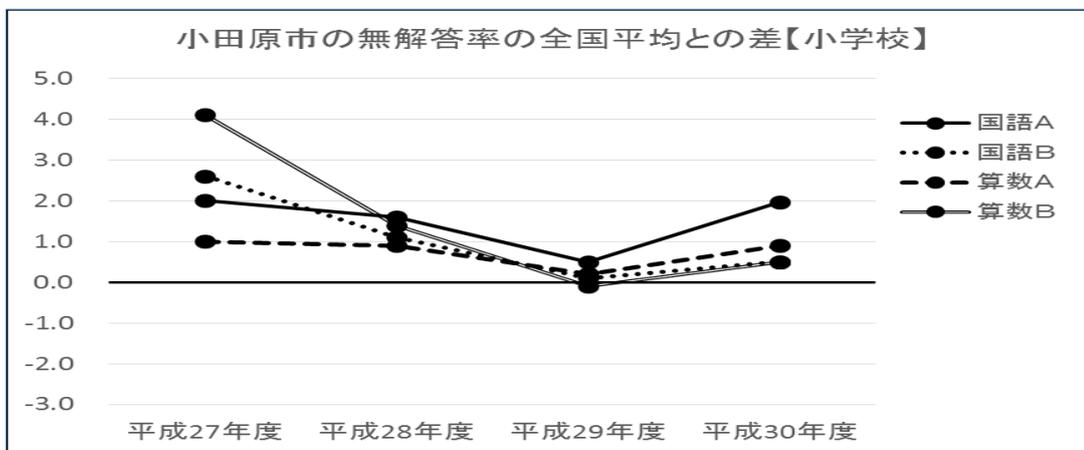
【中学校 数学A】(数値は平均正答率、単位は%)

設 問	小田原市	全 国
生徒35人の靴をサイズごとに調べ、最頻値が25.5cmだったことについて、必ずいえる記述を選ぶ	64.8	68.4
反復横とびの記録の中央値を求める	69.0	74.0
1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ	31.3	40.2
大小2つのさいころを同時に投げるとき、和が8になる確率を求める	69.2	71.3
平 均	58.6	63.5

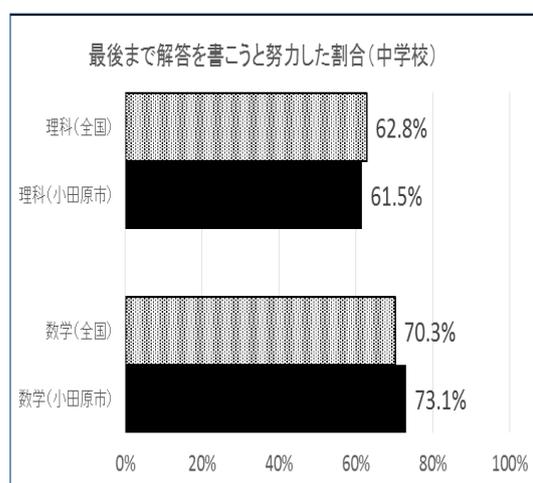
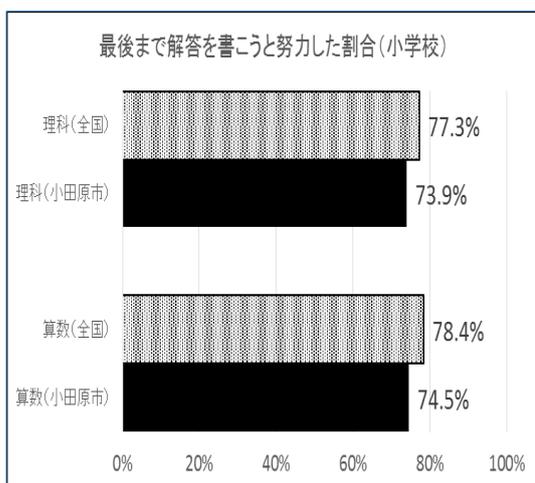
○中学校では、与えられた資料を読み取る「資料の活用」の問題の平均正答率が、全国平均を下回っている。

数量や図形などについての、基礎的・基本的な概念や性質などをしっかり理解し、日常生活の様々な場面で、数学的に問題を解決するための技能を身につけることが重要である。そのためにも、用語や記号の意味やよさが分かるようにするとともに、適切に使えることが大切である。既に学んだ内容を定着させるためにも、繰り返し問題に挑戦するなど取組の工夫が必要である。

【課題3】無解答率が増加



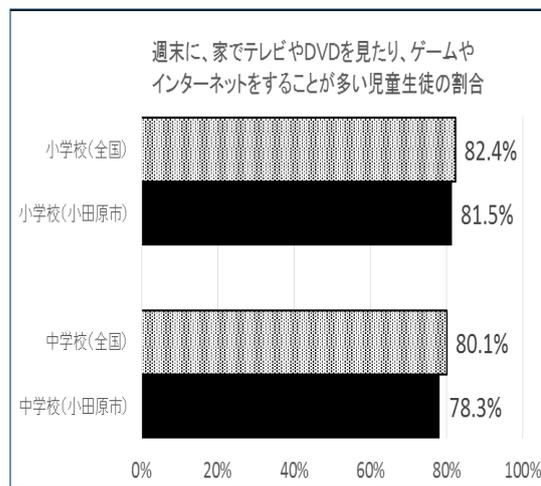
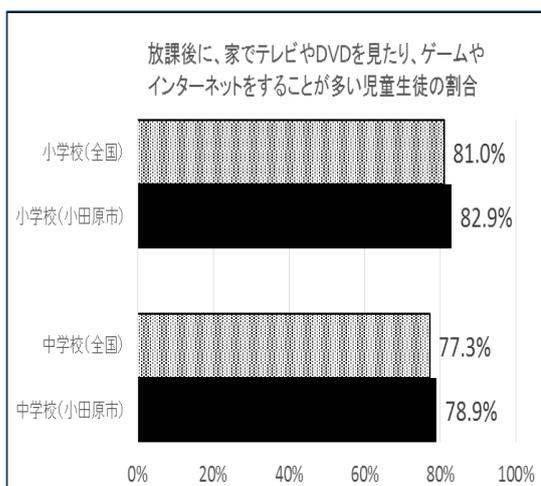
○小中学校とも、すべての教科で無解答率が、全国平均を上回っている。



○児童生徒質問紙において、「最後まで解答を書こうと努力したか」という質問に対し「努力した」と解答した割合が、中学校の数学を除き全国平均を下回っている。

昨年度、大きく改善し全国平均並みとなった無解答率であるが、今年度、再び全国平均との差が広がった。それとともに、児童生徒質問紙においても、最後まで解答を書こうと努力した児童生徒の割合が、中学校の数学を除き全国平均を下回っている。日々の生活や学習の様々な場面において、最後まであきらめることなく、粘り強く課題に取り組むことや、自分なりの考えをもつことの大切さを伝えていくことはたいへん重要である。

#### 【課題4】 余暇の時間の過ごし方



○児童生徒質問紙の、複数回答が可能な家庭での時間の使い方についての質問において、「放課後や週末に家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている」と回答した児童生徒の割合が最も多い。

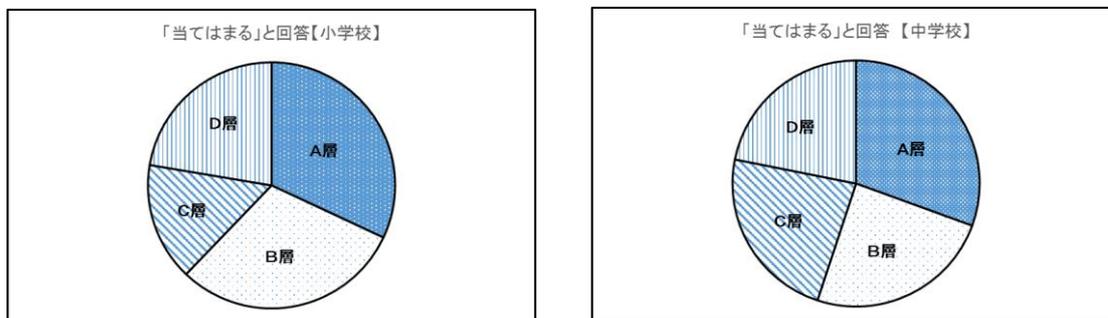
家庭で過ごす時間の中で、多くの児童生徒がゲームやインターネットを行っていることがうかがえる。これは全国平均と同様の傾向であるが、様々な電子機器等が児童生徒にとって、とても身近なものであることが分かる。各家庭において、ゲームやインターネット等を使う時間を決めるなど、子どもたちの生活リズムを整え、学習習慣を身につけるための働きかけが大切である。

(3) 児童生徒質問紙と学力との相関について

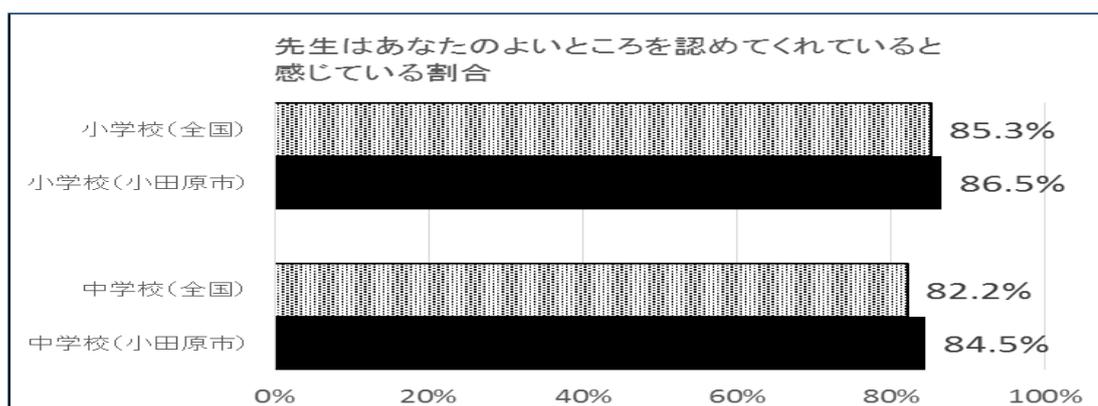
児童生徒質問紙の調査結果と算数A・数学Aの調査結果の相関を見たものである。

※以下に示すクロス分析の各層は、算数A・数学Aにおいて児童生徒を正答数の大きい順に整列し、人数比率により25%刻みで4つの層に分けたものであり、算数A・数学A以外の調査においても同様の傾向がみられた。

【相関1】「先生は自分のよいところを認めてくれている」と学力

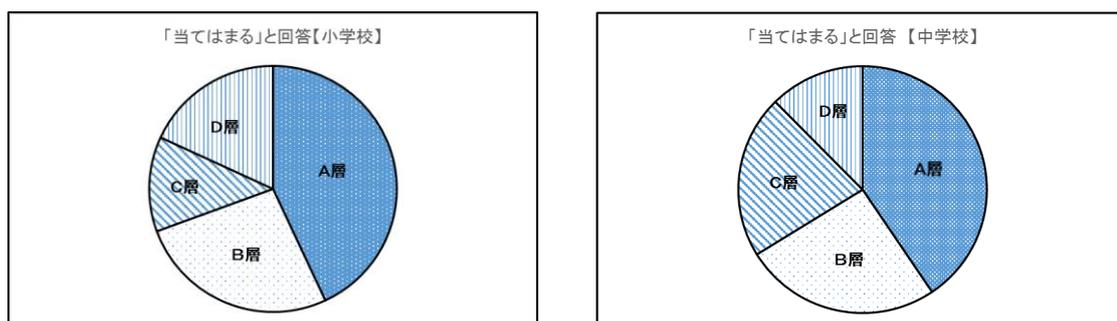


○小学校、中学校ともに「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という設問で「当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒はA、B層に多い。

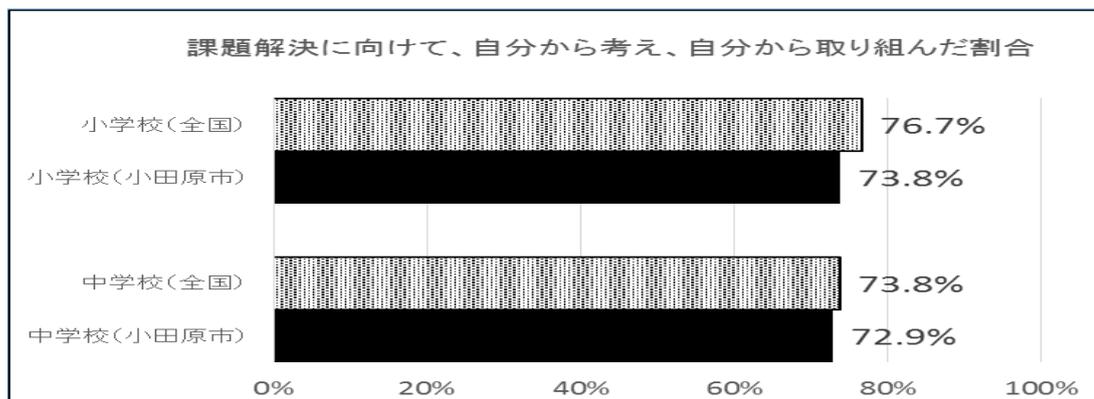


本市では、児童生徒質問紙の「先生はあなたのよいところを認めてくれている」において、肯定的な回答をした割合が小中学校ともに全国平均を超えており、児童生徒と教員の関係はおおむね良好であるといえる。また、児童生徒に対する肯定的な働きかけは、学びに向かう力を育み学力の向上に繋がると考える。今後も教員が児童生徒一人ひとりのもつよさに目を向け、きめ細かな指導に努めていくことが大切である。

【相関2】「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と学力

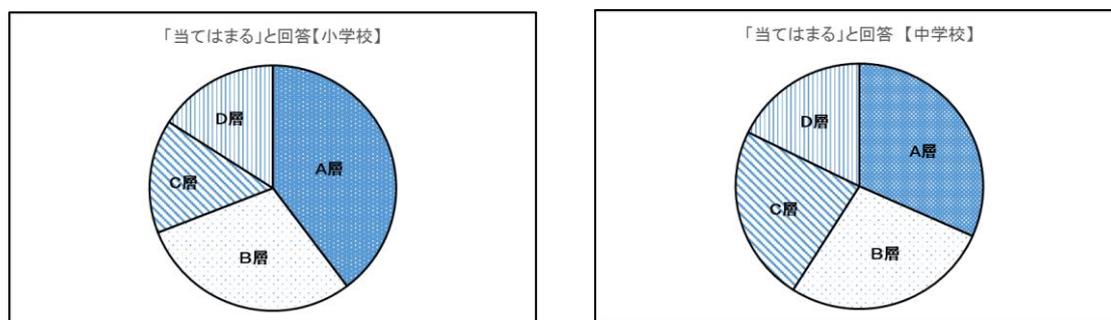


○小学校、中学校ともに「前学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」という設問で「当てはまる」と肯定的な回答した児童生徒はA、B層に多い。

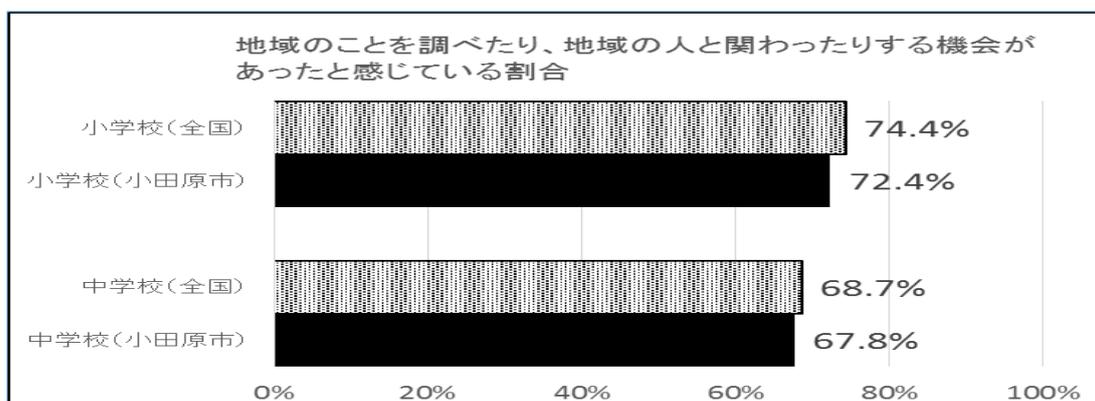


自分の考えをもち、主体的に課題に取り組むことはたいへん重要である。今後も、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童生徒一人ひとりが自ら問いを見出し、その解決に向けて知識や技能を活用し、学びを深めることを大切にした質の高い授業を目指していくことが大切である。

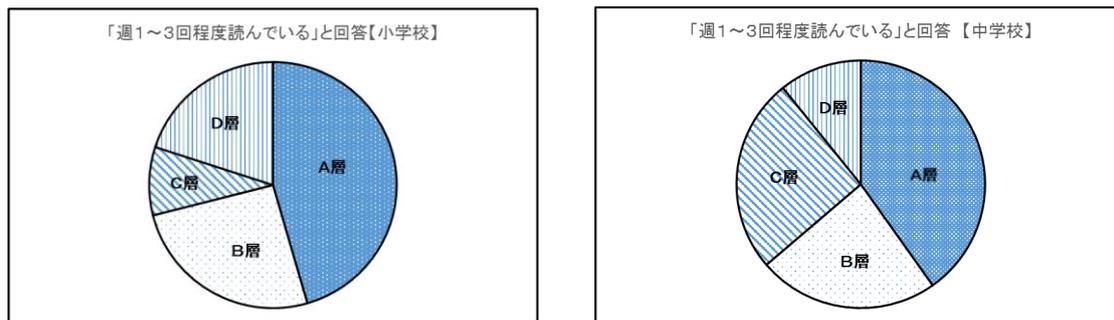
**【相関3】「地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった」と学力**



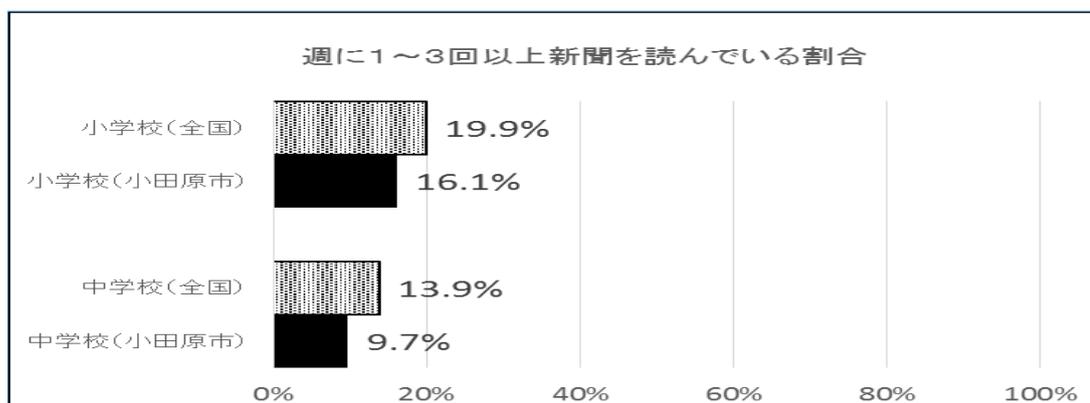
○小学校、中学校ともに「前学年までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか」という設問で「当てはまる」と回答した児童生徒はA、B層が多い。



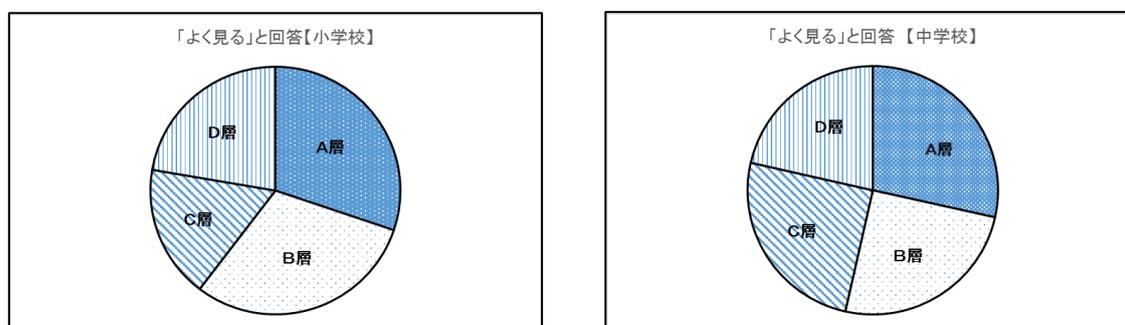
#### 【相関4】「新聞を読んでいること」と学力



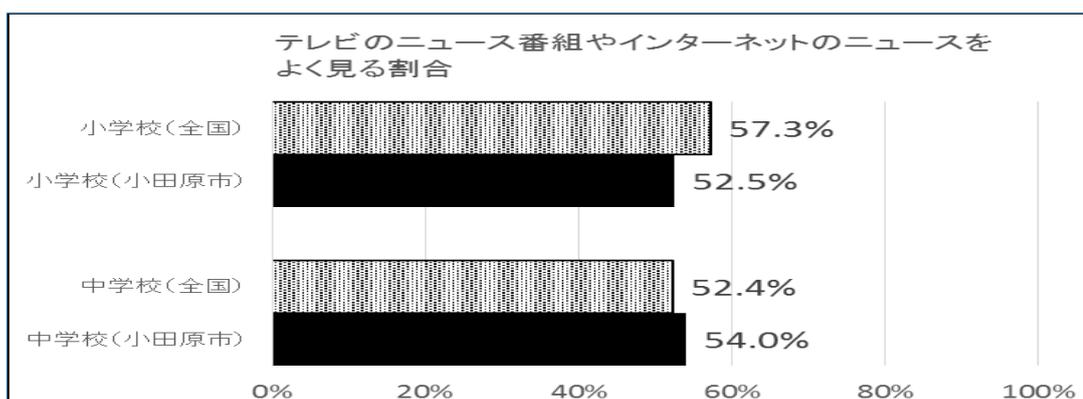
○小学校、中学校ともに「新聞を読んでいますか」という設問で「週1～3回程度読んでいる」と回答した児童生徒はA、B層に多い。



#### 【相関5】「ニュースを見ること」と学力



○小学校、中学校ともに、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」という設問で「よく見る」と回答した児童生徒はA、B層に多い。



社会的事象に対する興味・関心をもったり、地域の人や、もの、ことと繋がったりするなど、地域や社会との関わりと学力には相関が見られる。これからのグローバルな社会で多くの人と関わり活躍していくためには、まずは、身近な地域で様々な人々と主体的に関わりあう経験が必要である。そのためにも、児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域が、それぞれの立場で教育環境を整え、児童生徒の育ちを支えていくことが大切である。

